

## ブドウ 'スチューベン' の円筒形密着果房を生産するための果房整形法

葛西 智・久保 隆・菊池一郎

(青森県農林総合研究センターりんご試験場・\*同県南果樹研究センター)

Method of Berry Thinning for Harvesting Cylindrical and Tight Cluster in 'Steuben' Grapes

Satoshi KASAI, Takashi KUBO\* and Ichiro KIKUCHI

Aomori Prefectural Agriculture and Forestry Research Center, Apple Experiment Station

\*Aomori Prefectural Agriculture and Forestry Research Center,

Apple Experiment Station, Kennan Fruit Tree Research Center

### 1. はじめに

ブドウ 'スチューベン' は、300 g 程度の円筒形で密着した果房が商品性に優れ、さらに選果や荷造り時の脱粒、軸折れが発生しにくいという利点がある。

青森県では7月上旬頃の小さ粒大時に果房整形が行われるが、この作業によって収穫時の果房の形状がほぼ決定される。そこで、この300 g 程度の円筒形で密着した果房を生産するための果房整形法について検討した結果、簡易で正確な方法が明らかとなったので報告する。

### 2. 試験方法

#### (1) 果房先端切り込み長と残す果房長の検討 (2003年)

りんご試験場内の7年生スチューベン/テレキ5BB (一文字片側整枝の垣根仕立て) を供試した。果房整形時の果房先端の切り込み長を1及び3 cm、残す果房長を12、13及び14 cmとした区を設け、処理は第1果房を供試して小さ粒大時 (7月8日) に行った。また、いずれの区も果房上部の長い枝梗は処理時に果房幅を揃えるように切りつめた。なお、岐肩は開花前の摘心時に摘除した。収穫後、果房形及び密着程度を図1及び図2に示す3段階で評価した。

#### (2) 果房整形法の現地実証試験 (2004年)

鶴田町A地点の10年生スチューベン/自根 (一文字片側整枝の垣根仕立て) 及び尾上町B地点の15年生スチューベン/自根 (一文字片側整枝の垣根仕立て) の第1果房及び第2果房を供試して以下に示す果房整形法の現地実証試験を行った。

果房整形法: 岐肩は開花前の摘心時に切除した (図3の①)。小さ粒大時 (7月5日) に果房の先端を1 cm切除し (図3の②)、残す果房長が12~13 cmになるように果房上部の枝梗を切除した (図3の③)。また、長い枝梗は切りつめて果房幅を6 cm程度にした (図3の④)。

なお、果房整形は型紙 (下から1 cmの位置に線を引いた縦13.5 cm、横6 cmの段ボール紙) を果房にあてがいつながら、調査地の園主が行った (図4及び図5)。

### 3. 試験結果及び考察

#### (1) 果房先端切り込み長と残す果房長の検討 (2003年)

果房先端切り込み長を1 cm、残す果房長を12 cm及び13 cmとした区で収穫時に300 g 程度の円筒形密着果房が得られた (表1)。この結果から、果房整形時の果房先端切り込み長は1 cm、残す果房長は12~13 cmが適当であると考えられた。また、果房整形時に果房幅を揃えるために果房上部の長い枝梗を切りつめたが、整形直後の果房上部の幅は6 cm程度となる場合がほとんどであった (データ省略) ことから、果房幅の切りつめる目安は6 cm程度で良いものと考えられた。さらに、果房先端を長く切りつめたり、残す果房長を長くした場合、果房上部の長い枝梗を利用せざるを得ないために、円すい形で粗着な果房が多くなるものと考えられた。

#### (2) 果房整形法の現地実証試験 (2004年)

樹勢が落ち着いて結果枝の揃いが良いA地点では、収穫時に目標とする円筒形密着果房が高い割合で得られた。一方、樹勢が乱れ、結果枝の揃いが悪いB地点では、密着程度がやや劣ったが、その程度はほとんどが中程度であり、販売上問題ないと判断された (表2)。この結果から、異なる園地においてもこの果房整形法により300 g 程度の円筒形密着果房を生産できるものと考えられた。また、下から1 cmの位置に線を引いた縦13.5 cm、横6 cmの型紙を果房にあてがうと、正確な長さで整形できることから、この型紙は慣れるまでの指標として有用であると考えられた。

### 4. まとめ

ブドウ 'スチューベン' の300 g 程度の円筒形密着果房を生産することを目的とした、小さ粒大時 (7月上旬) の果房整形法について検討した結果、果房の先端を1 cm切除して、残す果房長を12~13 cmにし、果房上部の長い枝梗は切りつめて幅を6 cm程度にする果房整形法が適当であると考えられた。

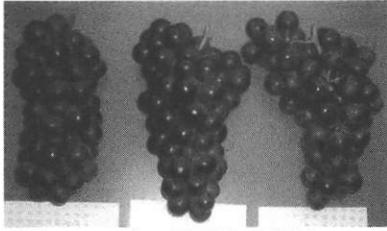


図1 果房形の評価  
(左：円筒形、中：中間、右：円すい形)

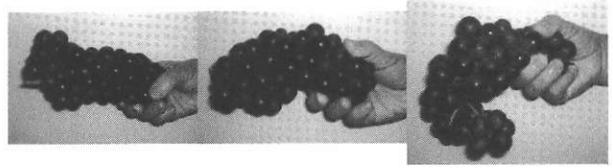


図2 密着程度の評価  
(左：密着、中：中間、右：粗着)

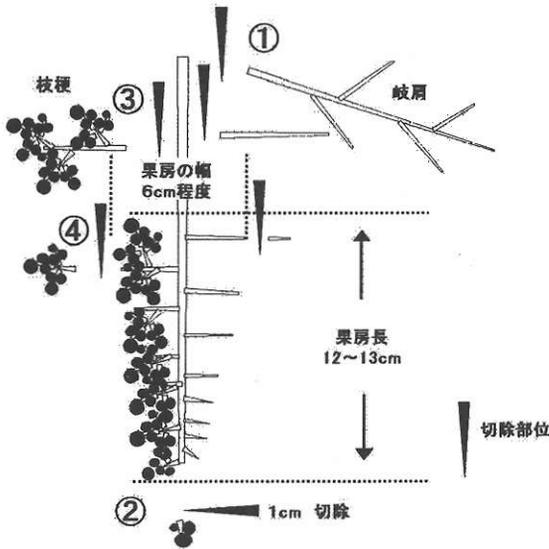


図3 果房整形法

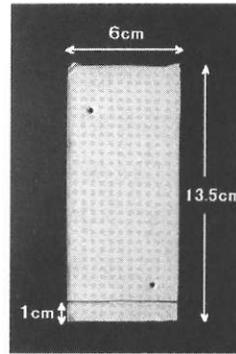


図4 型紙

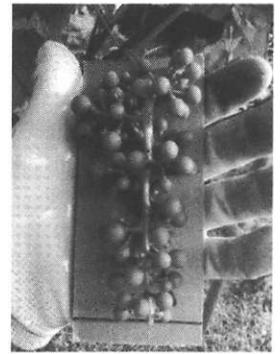


図5 型紙を用いた時の整形後の果房

表1 果房先端の切り込み長と残す果房長の検討 (2003年)

区	果房整形法の違い		収穫時の果房の形状														
	果房先端の 切り込み長 (cm)	残す果房長 (cm)	果房形			密着程度			果房重 (g)	果房長 (cm)	果房上部 の幅 (cm)	粒数	軸長 (cm)	着粒密度	枝梗数		
			指数 (1~3)	円筒形	中間	円錐形	指数 (1~3)	密着								中間	粗着
1	1	12	1.3	70	30	0	1.2	80	20	0	299	15.9	8.1	76	10.9	7.0	18.2
2	1	13	1.4	60	40	0	1.5	60	30	10	304	16.3	8.5	73	11.6	6.3	18.3
3	1	14	2.1	20	50	30	2.1	30	30	40	364	17.9	9.2	90	13.1	6.9	18.8
4	3	12	2.3	10	50	40	1.5	50	50	0	405	16.7	9.6	89	11.2	8.0	14.7
5	3	13	2.5	10	30	60	1.7	40	50	10	412	17.8	9.7	98	12.4	7.9	16.5
6	3	14	2.0	20	60	20	1.8	40	40	20	422	18.5	9.8	101	13.7	7.4	17.9

注) 果房形指数：1・・・円筒形、2・・・中間、3・・・円すい形  
密着程度指数：1・・・密着、2・・・中間、3・・・粗着

表2 果房整形法の現地実証 (2004年)

調査地	対象果房	整形前		収穫時の果房の形状														
		果房長 (cm)	果房上部 の幅 (cm)	果房形指数			密着程度			果房重 (g)	果房長 (cm)	果房上部 の幅 (cm)	粒数	軸長 (cm)	着粒密度	枝梗数		
				指数 (1~3)	円筒形	中間	円錐形	指数 (1~3)	密着								中間	粗着
A	第1果房	13.1	6.9	1.4	60	40	0	1.1	90	10	0	293	16.0	8.6	82	10.3	8.0	17.0
	第2果房	13.8	6.2	1.2	78	22	0	1.1	89	11	0	273	15.8	8.1	82	10.8	7.7	16.1
B	第1果房	16.1	9.8	1.7	33	67	0	2.2	0	83	17	288	16.6	9.4	75	11.6	6.4	17.0
	第2果房	13.5	6.7	1.1	86	14	0	1.9	14	86	0	257	15.9	8.3	70	10.7	6.6	14.7

注) 果房形指数、密着程度指数：表1に準じる。